

ORIGINAL EROTIC FANTASY COMI

ちくびむし
乳首蟲

知老樹と命の雫

THE DUNGEON OF WISE



異種間	孕ませ	長乳首
触手	膨乳	IF物語

OVER 18 ONLY
らばた工房

Welcome to LARVATURS !

夢と、魔法と、淫獣の国へようこそ

「乳首蟲 知老樹と命の雫」





魔法使いの伝令係
ポルックは
衰弱していた

彼女との
幾度かの冒険で
無理をしたからだ

彼の生命力は
日ごとに
細く弱く
なっている

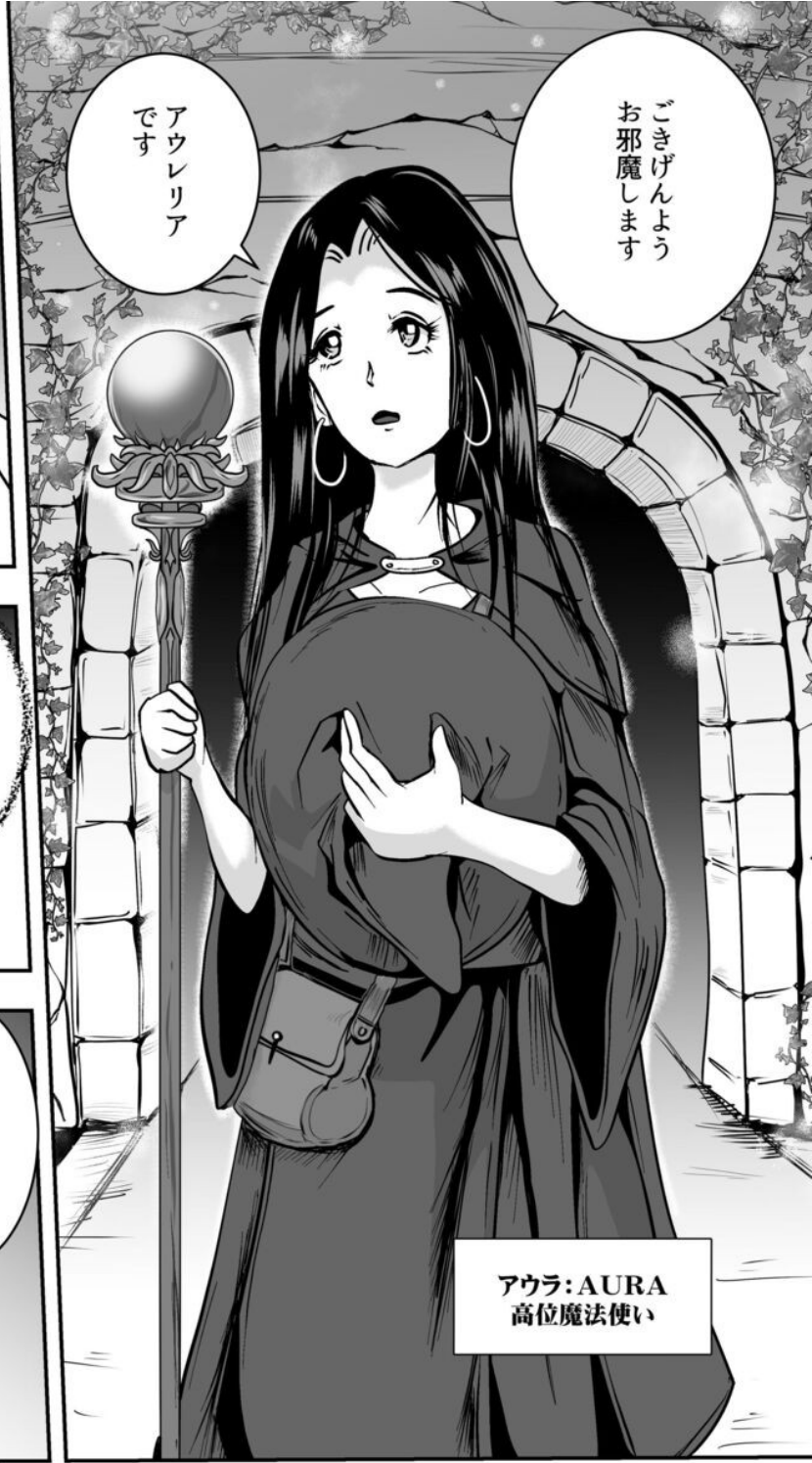
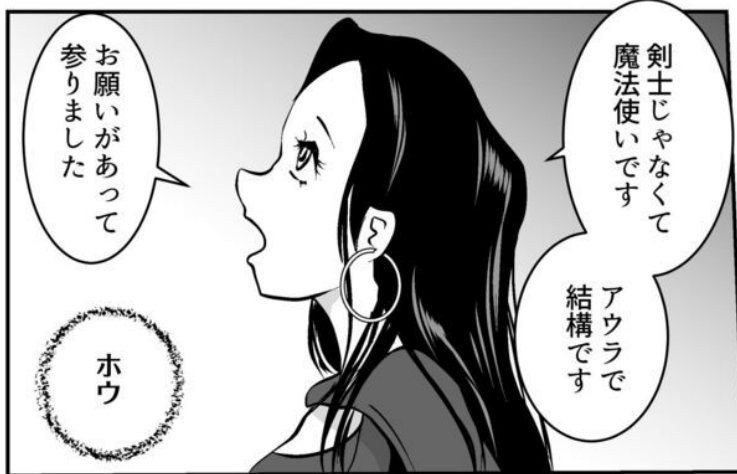
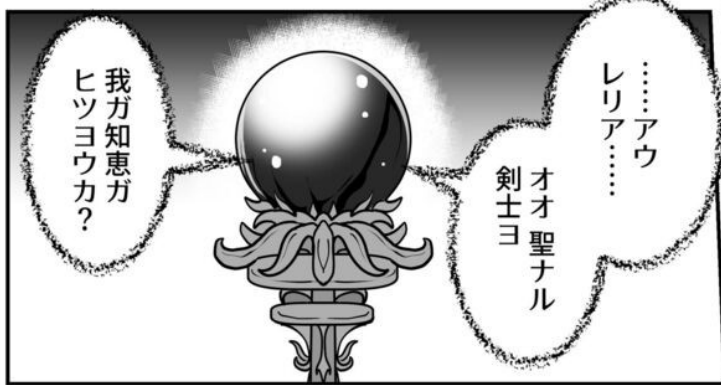


ちろうじゅ
知老樹
Wise Tree



魔法使いは
生命力を回復する
効果のある
アイテム

「命の雫」を
手に入れる為に
「知老樹の迷宮」へ
降りた



オマエノ
優シサに
免ジテ
サズケヨウ



シカシ偶然
ヒトツダケ
アル

「命の乗」ノ生成ハ
トテモ時間ガ
カカルものダ……

魔法使いです
アウラです

エカテリーナよ

心優シキ
ヒツジカイ

ソレハ
尊キ心掛ケジャ



ええええー!!



コノヨウニ
尖ツタモノハ
充分注意……

はいっ
存じて
おります

コノ乗ハ
壊レヤスイ

えっ
ちよっ
えっ



知老樹様
ご配慮に
深く感謝
致します



ご無礼を
お許し下さい

ありがとう
ございます

御枝に
乗らせて
頂きます



ホレ

コレデ
登ルガヨイ



ななななな
なんて事を!!

大丈夫ジャ
モウヒトツ
アル

ココじゃ

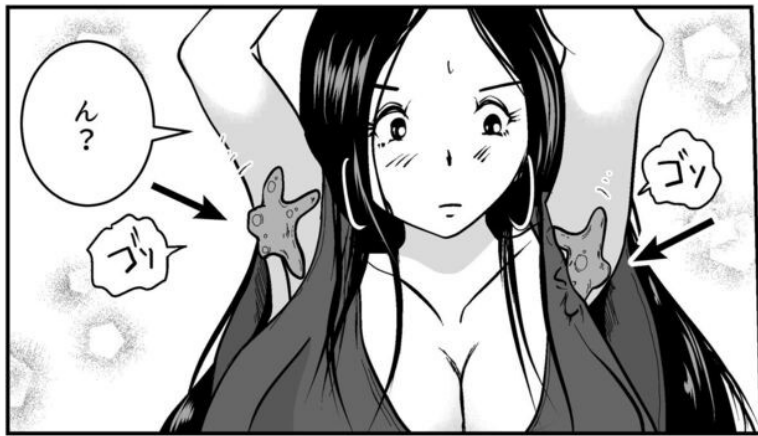


そそ
そうなんです
良かった……

ちよつと
高い所に
ありますね

届くかな

ひとつだけ
と……





オマエの
マナを

うえええ

ウエエツテ
言ツタカ?

言ッてない
ですね



エカテリーナよ
モノは相談ジャ
がナ……

アウラです

最近ソレハ
ロクナ榮養ヲ
トツテオラン

少シ分ケテ
ヤツテハ
モラエンカノ
……



でもこの
ご親友様一度
噛みつくつと

ぎゃう

なかなか
取れない
んですよ

私あまり
時間が無くて

問題ナイ

ぎゃう



ソレガ満足スレバ
勝手ニ外レル
ソレを外スコトガ
「命の雫」の
交換条件ジャ

ソノ為ニ
部屋モ用意
シテアル



待ッててね

ポルツク



いや……

……まあ
そうよね
簡単には
行かない
わよね



満足?
部屋!?

降ろすソ

きゃっ

杖に付いて
来るがヨイ

えっ!!
えっ?!

ドッ

小部屋
【罪人の牢獄】



「ボリモラ」
Bolimora



ソノ獣ハ
コノ牢獄デ
長い時を
過ゴシテイル

アットイウ
間に射精
するジャロウ

獣ノ精液ハ
女のマナを
分泌させル

我方親友モ
満足ジャ

フホホ



はあ

はあ

はあ

はあ

モンスターから
射精された精液は
アウラを
内側から犯し

乳首からは
マナを滲ませる

はあ

はあ

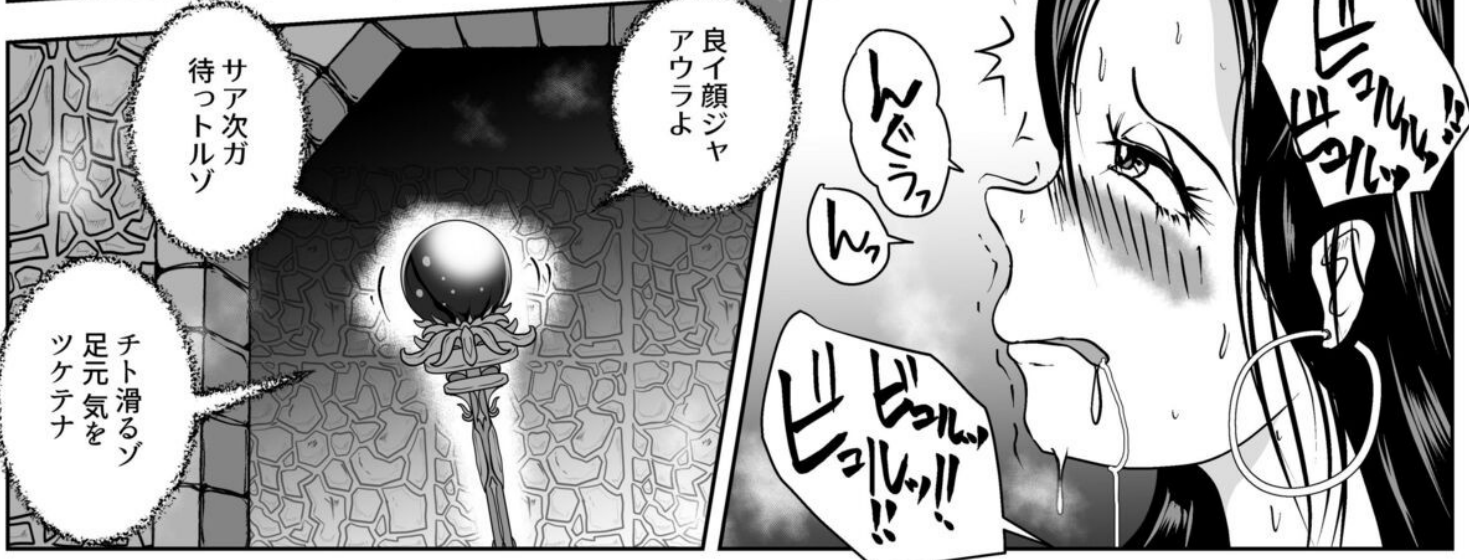
「乳首」は
このマナを
喜んですすった

はあ

はあ

はあ

はあ



良い顔ジャ
アウラよ

サア次ガ
待ットルゾ

チト滑るゾ
足元気を
ツケテナ

はあ

はあ

はあ

小部屋
〔源泉混合
調整室〕

グローグ: Gulork
(エリヒゲミストカゲ)



気をつけるト
言っタじやろうが

いま杖で足
引っ掛けまし
たよね?

ココは
この先の源泉ト
地下水ヲ合わせる
部屋ジャ

老木に
源泉はチト
体に毒デノ

引
足
っ
か

ソイツの槍ハ
長イゾ

子宮ヲ
カキ回シテ
モラウガヨイ



小部屋
【源泉管理室】

杖によればこの
小さき者たちは
迷宮の整備を
する者たちこの事

暑い湯気が
立ち込める
小部屋で



アウラは
導かれるままに
体を与えた

抵抗しても
時間を浪費する
だけなのだ

コビト族 (パルバ種)
Palva

この部屋
すごく暑い

頭が
クラクラ
する

手は
壁に貼り付いて
取れないし...

「整備員」って
コビト族
じゃない

純粋な種を
こき使う
なんて...

ん？
待って
...

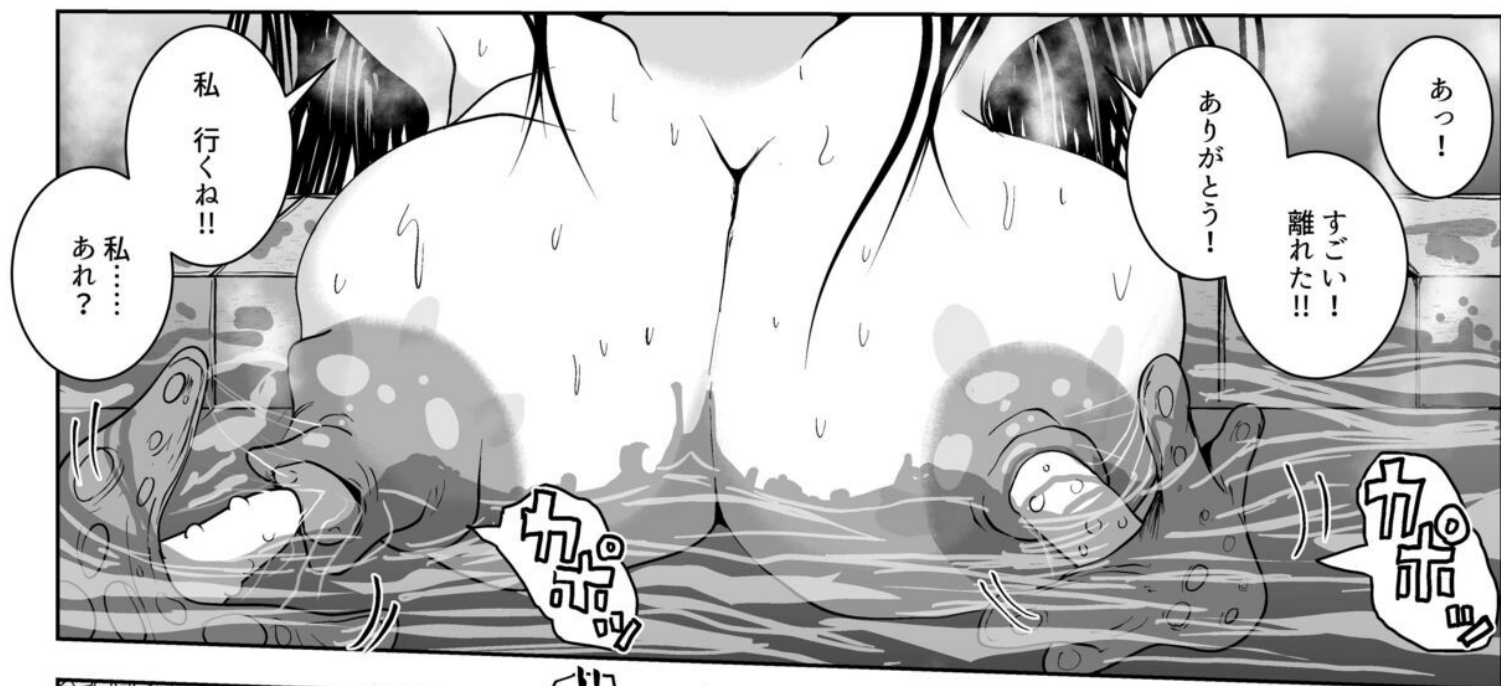
ひよっと
して

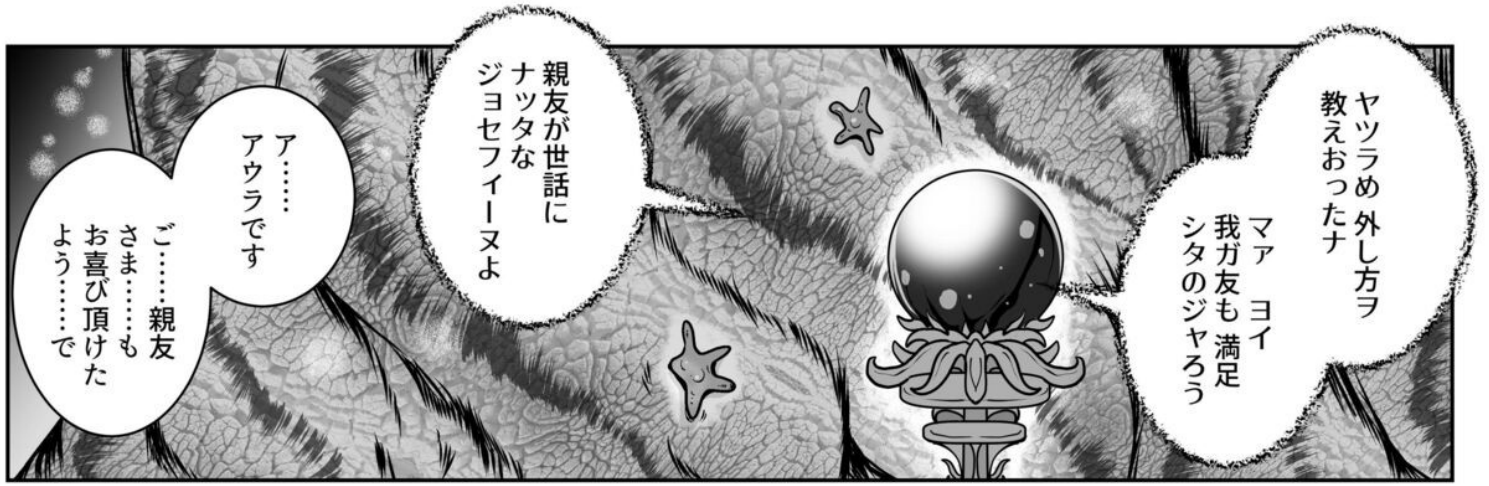
ねえ
整備員さんなら
ひよっとして

「この」取り方
知ってる？

え!? 本当!?
知ってるの?

お願い
取って欲しいの





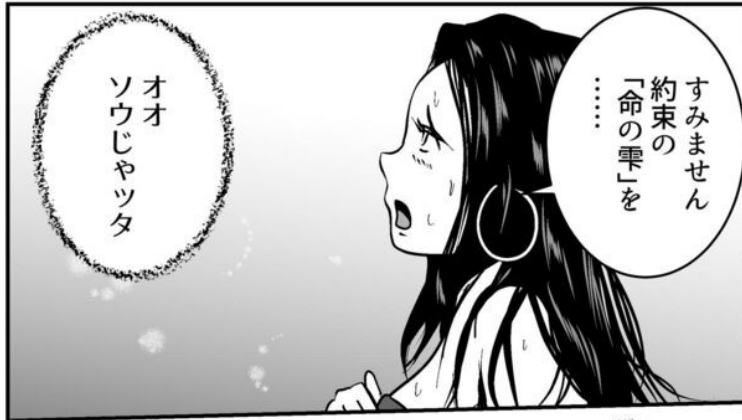
ヤツラめ外し方ヲ
教えおったナ

マア ヨイ
我が友も満足
シタのジャラウ

親友が世話に
ナツタな
ジヨセフィー又よ

ア……
アウラです

ご……親友
さま……も
お喜び頂けた
よう……で



すみません
約束の
「命の雫」を
……

オオ
ソウじやツタ



杖を通シテ
オマエの
「美味さ」ハ

充分に
感じラレタ

やはり
魔法使いハ
イイ

剣士ト違ッテ
体が柔ラカ
食ツタラ

あの



コレジャ

割らぬ
ヨウにニナ

あ……
ありがとう
ございます!



コレハスマン
ドレワシガ

えっ……
ちよつ
持ち上ゲテ
ヤロウ

やめっ……
わああああ



ああの
すみません
もうちよつと

もうちよつと
下げて頂け
ますか?



待つで
待つで
ぐだ……さい

お願いもう
無理……で



オヤ 肥大化シタ
胸が重そうジャノ？

いえも
大丈夫で
大丈夫で

ソウソウ
親友は他にも
マダおるデノ

親友たちヨ
この不憫な
魔法使いの胸を

待つてく
それじゃ
約束が違

吸って
ヤロウでは
ナイカ？



む……でい
です……

やめ……



乳首蟲は
その男根を
アウラの乳房の
中に埋めた

吸ってない
吸ってない

挿入てます
挿入てます

拡張された
乳首に強烈な
刺激が走る



ウムム…イマイチ
マナが薄い
ヨウジャノウ……

オットコレは
ワシとした
事が

孕ませて
ヤランとな





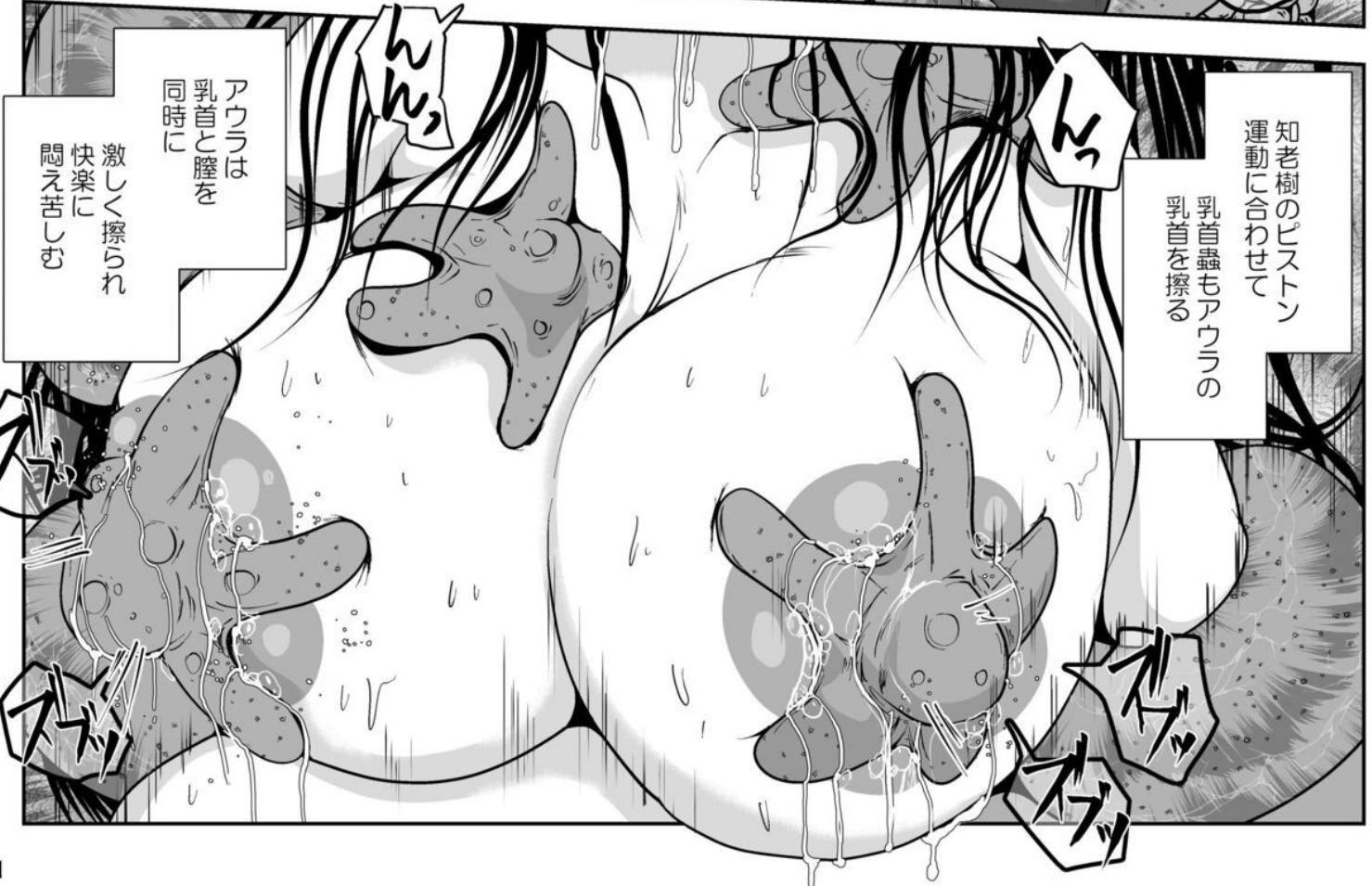


飲メ!!アウラよ!!
「命の雫」を飲め!!

喘ゲ!!

もつと腰を
振レ!!

ガーン
ガーン
ガーン



知老樹のピストン
運動に合わせて

乳首もアウラの
乳首を擦る

アウラは
乳首と膣を
同時に

激しく擦られ
快楽に
悶え苦しむ



アウラは
何度モイかされる

知老樹は
大量の精液を
注ぎ込み

アウラはそれを
ひたすら受け入れる
しかなかった

飲メ!!

「命の雫」を
飲むノダ!!



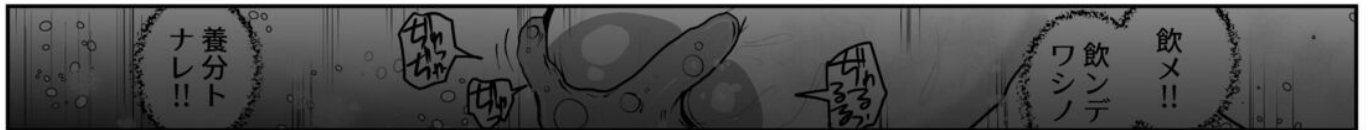
マダ飲まぬ力!?

無能な
生き物よ!

オマエの
カラダでワシに
奉仕セヨ!!

人間ナド
ソノ程度シカ
役に立タン!!

サツサと
飲まん力!!



飲メ!!

飲ンデ
ワシノ

養分ト
ナレ!!



EXTRA STAGE IF

もしも アウラが「命の雫」を
飲んでしまったら……



アウラの体は
回復し 体つきも
より肉感的になる

精液を大量に
注がれたまま
体力を回復して
しまつと

体はより強い
快楽を求める

体が
モンスターとの
性交に

最適化されて
しまうのだ



邪魔ジャ
虫ケラめ!!

ソノ穴は
ワシが
挿入レル!!



蟲に拡張された
アウラの乳首も

さらなる快楽を
求めて
硬く勃起する

女よ
至高ノ
快楽ヲ!

与えて
ヤロウ!

アウラは
うしろめたさ
からか

快楽に
抗おうとする
……

が……



その抵抗は

数秒も
もたなかった



乳首からは
最も濃厚な
マナが噴き出す

獲物が
「落ちた」
合図

「食べごろ」だ



旨いイ!!

魔法使いは
実に旨い!!

このオンナ

ナント
美味ジャ!!

この
歯ゴタエ!!



孕マセ
ハメ食イの

気分は
ドウじゃ!?

ワシと同化
デキルのジャ!!

嬉シイ
ジャロウ!

ワオ

アウラは

この年老いた
樹のパケモノに
喰われてしまった

しかし
アウラの命は
「雲」となって

また誰かを
癒すだろう



樹の下では
アウラから
噴き出された
体液を

乳首蟲たちが
美味しそうに
舐めていた



BAD END

SETTING

【アウラ（アウレリア・グラノジェルス）】

かなり高位の魔法使いとのことだが、アウラが実際に強力な攻撃魔法を使用しているところを見たものはあまりいないので、今は「変わり者」といった肩書のほうがよく知られている。ただ、実際に、それなりの魔力が無ければ生還できない冒険を繰り返しているため、その実力は相当なものだろう。相棒のボルックはその度に大ピンチになっていたりするが、居心地が良いようで、今のところアウラの元を離れることはなさそうだ。

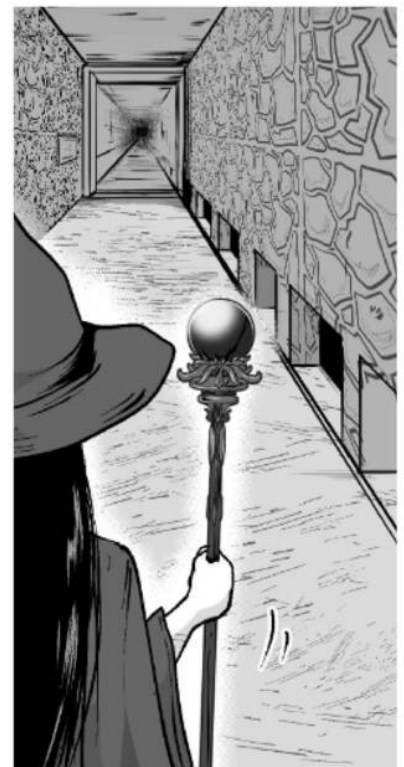


【乳首蟲】

女性の乳首に噛みつき、ひたすらマナを吸い続ける蟲。もともとレア種だったのだが、昨今、被害の報告が相次いでいる。好んでマナを与える者がいるのかもしれない。全身が筋肉で、口面には歯が付いているので、なので、無理やり引きちぎったりすると、乳房がダメージを受ける。筋肉は緩ませるに限る。

【知老樹の迷宮：ダンジョンオブワイズ】

かつて、名だたる魔法使いたちが、その知識を得るために赴いた。その通路や小部屋はきちんと管理されており、さながら、何らかの施設のようだ。その、通路や小部屋には、地下のロビーまで引き込む水路が並走しており、力尽きたり、快樂失神した冒険者などはその水路で「待機室」に運ばれる。そこで「品定め」を受けて、その後の対応が決まったりする。奥の広間にいる知老樹は1つの訪問につき、1つ、何でも答えてくれる。その知識を得る際に、代償として謎かけやクエストがあり、これに失敗すると大変な目に合う。本来、隠されたこの迷宮の入り口から訪れるのは、それなりに学びを得た魔法使い達だけだった。しかし「集合知」の発達により様々な情報が一般化され、最近では文字通り「入れ食い」状態だという。謎かけに失敗したのに生還した、いわゆる「魅力に欠ける」冒険者によれば、昨今は、「本当に旨い女がくるのは極まれだ」と知老樹が嘆いているようだ。面倒なジジイである。また、いくつかの部屋には温泉がある。その昔はここが「若返りの泉」として魔法使い達に重宝されたが、ちょうど高齢の女魔法使い達がこの温泉を独占するようになった頃に、その効果がなくなったとされている。



【人型モンスター：ポリモラ】

人型のモンスター。知能が低く、力が強い。報酬をきちんと与え、命令を上手く伝えられれば、力仕事や、ガードマンなどの作業もやってくれる。ただ、やめ時や力加減が解らず、よく施設を破壊してしまう。首や鎖をつけているが、その気になれば簡単に引きちぎることが出来るだろう。でもそれをしないのは、ここにいることが彼にとってメリットがあるからだ。

体が大きく、力が強く、精力旺盛、さらにはその見た目のモフモフ具合から、一部の女性たちに人気が高い種族でもある。

*人型モンスターは、人間に対して組織的な攻撃をしないので、獣人とは区別されている。



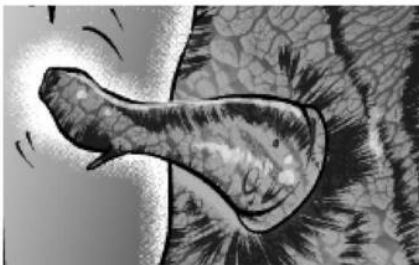
【トカゲ型モンスター：グローク】

エリヒゲミズトカゲ。フィールドにもいる、珍しくない存在。エリヒゲは伸びて触手のようになり、攻撃や確保に使えるが、ここにいると女が勝手に流れてくるので、そういった攻撃もなくなった。きれいな水を好む。直射日光が苦手。性格は本来獐猛な種だが、この個体はずいぶん性格が穏やかだ。衣食住が足りると人は穏やかになるのだろう。衣もないし人でもないが。

【コビト族：パルバ種】

コビト族とは、この世界を影で支える小さき者たちの総称。温厚で、争いを好まず、モノをつくったり荒れた土地を整備したりする事が大好き。森の中なのにレンガが敷き詰められた道があったりするのはいずれ彼らの仕事。この迷宮のポリモラの世話をしているのも彼らだ。

彼らは自分たちの使用するもの以外は、何故か「おおきなものたち」のサイズで作る。「おおきなおんな」つまり人間の女性の体が大好き。着衣のままを好むのは、実際に自分たちで裁縫もこなすからだろうか？稼働時の男根は巨大。



【古代黒曜樹：知老樹】

前世代からある古い黒曜樹の一種。歳月を重ね、深い思考や知恵を持つようになったもの。昨今（といっても数百年単位だが）では、黒陽樹の立ち枯れが問題視されており、その原因は人間の魔法使用だとする学者もいる。現在、黒陽樹の新たな若芽は確認されていない。

本個体の樹齢は6万年程度だと推定される。6万年同じところで立っていれば、ボケが始まるのも仕方ない。味の良かった女の名前は覚えているようだ。

【リインカの杖：ロッドオブリインカ】

ブラックオーブを利用した、「モンスターと対話ができるアイテム」。しかし、杖の発する言葉は、術者の能力を通して行われるので、その言葉の正確性は術者の能力に依存する。なお、術者の能力が高ければ、接続状態の杖は、自分で移動することも出来るし、その杖が見たもの、感じたものを対象モンスターに伝えることが出来る。

他にも攻撃力強化、またサブウェポン（予備魔法）の自己発動、ホームポイント設定も可能。冒険終了後、残 MP 関係なく、瞬時に帰還することができるのは魅力だ。

なお、「翻訳機能」の使用中は常に術者の MP を消費し続けるので、よほど高位の魔法使いでないと、長い会話をするのは難しい。

手に入れること自体は、それほど難しいアイテムではない。しかし前述のとおり、なにせ、使える者が少ないのでその結果、いくらオーブファクト（＝オーブ使用のアイテム）とはいえ、売れ残り状態になっている。この杖を持ち、さっそうと冒険に赴く魔法使いの姿は、あまりにもあこがれるが、杖に MP を吸い取られて行き倒れては世話が無い。モンスター交渉が必要なクエストで、あなたが熟達者でないのなら、素直にギルドでリインカを雇うことだ。目玉が飛び出るほど高額ではあるが。



【命の雫】

知老樹の樹液を抽出した実。生成には1年かかる。人間、獣人、動物問わず、数滴摂取するだけで体力が超回復する。本編中の実は、まだ若く、この時期はまだ外皮が硬化していないが、その効用については問題ない。ただ、あまり甘くない。成熟した実は外皮が硬くなるので、携帯がしやすくなる。もちろん超レアアイテム。この「知老樹」のみの産物という訳ではなく、古い黒曜樹からは、抽出が可能。露天商で売ってるボトル詰めのお洒落なモノはほとんど偽物だが、瀕死状態で口にすると、まさにその効果を感じるだろう。

最高気温が36℃とかじゃ、もう驚かなくなっております昨今、皆様いかがお過ごしでしょうか。この度はお買い上げありがとうございました。制作者の高石です。この数週間の最後の追い込みで連日のデスクワークに体がかたまりまくってしまい、これは早朝の涼しいタイミングでジョギングしたると普段まずしない事をやってみた結果、現在ふくらはぎがツリまくってる上に何故か、体中が何をしても痛いんです。もっか、階段は手すりが無いと登れません。おじいちゃん！

今回もアウラさんが体を張って、頑張ってくれました。楽しんで頂けたら幸いです。アウラさん、知老樹の迷宮をあつという間に最奥までたどり着いていますが、ほんとはもう少し、道のり長いです。地下5Fぐらいあります。どうやらアウラさん道知ってるので、ひよひよい行ってますが、トラップあり、隠し通路ありで、詳しくない者にとってはそこそこの難関です。詳しくない者達のそういう本も描けると良いナ（やりたいことだけはどんどん積まれていく）。

前回の「乳首蟲」（2019年、まだコロナ襲来の前なのね）のでは「今回は、乳首蟲という焦点がぼやけたので、今回はアウラが乳首蟲の攻めにひたすら耐える本を描きたい」みたいなことを駄文ブログで言ってますが、今回も見事にばやけましたね。主役、老木ですもんね。ピバおじいちゃん。この辺りはもう、作者の力不足としか。シンプルで読ませるモノを描ける人はホントすごいと思います。

そうそう、上手い人の本って、線がすごくシンプルで少ないのに、質感を感じますよね。自分の描く本の誌面が、やたらごちゃごちゃしてて見にくいのはもう、すみません、こういうものだ、とお許しください。ヘタはとことん描き込まないと鑑賞に耐えられるものにならないのです。え、描き込んでなくてもないって？フフフ、まあね（開き直るな

パッドエンド分岐に関しては、なんていうんでしょうか、キャラを愛する心が膨らむほどに、この間を見たいという思いが同じだけ増幅していきます。そういうのありません？彼女が辛いのはすごく嫌なんですけど、それを想像するとゾクゾクしてしまう自分というのもおまして（うわ）、おそらく皆様も同じかと（やめれ

さて、皆さんお待ちかねの高石近況です。今回、この夏コミC104には、数冊の新刊がある予定でした。しかしまんまと、半年間、なにをやっていたんでしょうか。いや、決してポケーっとしていたつもりは無いのですが、下手の考え休むに似たり。似たりどころか、結果、休んでいます。ようやく締め切りギリギリで完成したのがこの1冊です。

「生活に追われて原稿が出来ない」ってなんかもっともらしい理由にも聞こえるんですが、半年間30Pの原稿が描けないってのはもはや、何かが間違っている訳です。自分の時間はすべて自分で使えた昔を基準にしてるので、これはつまり「1日10時間の作業時間が取れない限り同人活動はできない」って考えてるのが既にわけわかめです。もうすこし描いていきたいので、体と時間の使い方にあつた制作環境と、ライフワークとしての作品「MonsterTours!」についても、方向性を整えたいです。しょっちゅう言ってるな。

先ほど、冬コミC105の申し込み案内メールが来ました。参加申し込みはするつもりです。お席頂ければ良いな。それと冬コミ、今年は大みそか開催じゃないみたいです。多くのコミケ参加の皆さんと同じように、「あれ、大みそかってどうやって過ごせばいいんだっけ？」という不安を既に感じています。この酷暑の日々にダウンコートで溢れるビックサイトを思い起こすのはなかなかのブレインダムドです。

実は、このあとがき書くの4稿目で、めちゃくちゃ時間かかってます。バカだろ？否定はしません。原稿中の出来事、公約ゼロ達成の都知事再選。トランプさん暗殺未遂。戦争中の平和の祭典パリオリンピック。これおかしきよね？変だよねみたいなことをグダグダ書いて、さすがに高石あとがきとは言え、これはウザいだらうと。ボツリヌス菌です。

ただ、そこで書きたかったことは、「あれ、世の中虚構じゃね？ルールに見せかけたルールがあるだけで、ウソばかりじゃね？」ってことで。脳が判断しやすいようにリアルを区別してるだけで、既に虚構の中に生きていくという認識があつたほうが良いよね、そこでおすすめする虚構あるよ、らばたって世界だよみたいな宣伝もしなやかに混ぜ込んでみました。

権力者の武器、私たちをじわじわと蝕む「不安」という攻撃を受け続けると、腐った土壌が心の中に作られます。その土壌の上に心があると、何でも言うことを聞いてしまいます。どうせ世の中虚構なら、心の帰る場所としての虚構だつてあつても良いんじゃないかと。「小さな心の故郷」をいくつも持つことは、じわじわとその土壌を修復しますよね、善玉菌ですね、ピフィズですね。R-1菌の本名はラクトバチルス・ブルガリクス(Lactobacillus bulgaricus)OLL1073R-1だそうです。知らんがな。

創作同人界隈の片隅にかりうじて生きる雑菌らばた工房がなにを世界語ってるんだという感じですが、自分の目的は、常連の皆様にご心ゆくかに在って頂く事です。高石はもうそこそこのおじいさんなので、広く世界は救えないんですけど、いや若い時から救った記憶はないんですけど、自分の両手を広げた状態で触れらる範囲にあるタマシイに関しては、良くあつて欲しい、と願うものです。

全ての近隣のタマシイに祝福と健康を。創造力を引き出す同人菌らばた1。 2024年8月 高石ふう

【奥付】 ・誌名：「乳首蟲 知老樹と命の雫」

・初版：2024年08月12日（C104）印刷：株式会社栄光 ・著者：高石ふう / X : @lavatakoubou

・サークル名：らばた工房（EroticFantasy ラーバタス） <https://www.larvaturus.info>





See you on the
next adventure!





“らばた工房”
告知用 X

